

2014煌めく青春・南関東総体レポート

「君の汗 輝く一滴 勝利の零」

全国高等学校体育連盟テニス専門部

副部長

内藤 美明

〈はじめに〉

煌めく青春・南関東総体は、2020年東京オリンピック・パラリンピックのテニス会場となる、「テニスの聖地」有明テニスの森公園で開催されました。東京都の先生方・補助員の高校生達が、6年後の東京オリンピックで再びこの会場に立つことを目指す高校生達のインターハイを作り上げるのだという思いを込めて、大会がスタートしました。



〈開会式〉

今年は、種目別開会式ではなく、久しぶりの総合開会式でした。調布市西町にある全国の高校生アスリート達が集う総合開会式にふさわしい座席数49,970席の味の素スタジアムで行われました。16時30分開式通告の後、選手団の入場、東京都高等学校体育連盟会長による開会宣言で、総合開会式が始まりました。「2020年の東京オリンピックを目指すぞ！」という思いが伝わって来るような素晴らしい総合開会式でした。

総合開会式に引き続いで、地元の高校生達による公開演技、プロローグに始まり、和太鼓演奏、三味線演奏、マーチングバンド、ヒップホップダンス、間奏曲、創作ダンス、そしてエピローグと「煌めく青春～成長～」をテーマとした素晴らしい演技で、会場の雰囲気を盛り上げ、参加校の翌日からの試合にかける思いを後押ししました。



〈団体戦〉

男子ベスト8は次の学校。

柳川（福岡）、県岐阜商（岐阜）、浜松市立（静岡）、東海大菅生（東京）、四日市工（三重）、札幌日大（北海道）、大分舞鶴（大分）、湘南工大附（神奈川）。

男子は、団体戦最終日に決勝戦を有明コロシアムで行う関係で、初日に3回戦まで行いました。

男子も女子も日が暮れてナイター照明のもとで熱い試合が行われました。

団体戦2日目は、準々決勝と準決勝が行われました。大分舞鶴（大分）が、2連覇を狙う第2シードの湘南工大附に競り勝って、初のベスト4に進出しました。しかし、準決勝で四日市工（三重）に敗れ、初の決勝進出は、夢と消えてしまいました。

春の全国選抜高校テニス大会の決勝と同じカードとなった、準決勝のもう1つの試合は、東海大菅生（東京）が柳川（福岡）に勝利して、決勝に進出しました。

東海大菅生（東京）と四日市工（三重）の決勝戦は、有明コロシアムで行われました。



ダブルス小見山・松田（東海大菅生）対鈴木・橋川（四日市工）の試合は、3-6、6-4でファイナルセットへ。4-4でサービスゲームをブレークした東海大菅生が5-4。続くサービスゲームをラブゲームでキープして6-4でまず、1勝。シングルス1齋藤和哉（東海大菅生）対島袋将（四日市工）の試合も4-6、6-3でファイナルセットへ。ファイナルセットを四日市工が6-3で勝って、ポイント1-1のイーブン。勝負の行方は、シングルス2へ。田中凜（東海大菅生）対山佐輝（四日市工）の試合は、ファーストセット、激しいラリー戦を征した四日市工が6-4。セカンドセット、四日市工の5-2、40-15。東海大菅生、ツーマッチポイントを凌ぎサービスキープで5-3。次のゲーム、40-15で再び、マッチポイント。四日市工、フォアクロスの鋭いボール。東海大菅生、やっと返したが、甘いボール。強烈なフォアハンドでエース。片手を上げてガッツポーズ。ベンチで徳丸監督も拳を握りしめた両手を挙げて、四日市工の優勝が決まりました。



女子ベスト8は次の学校。
園田学園（兵庫）、野田学園（山口）、宮崎商（宮崎）、名経大高蔵（愛知）、富士見丘（東京）、城南学園（大阪）、岡山学芸館（岡山）、湘南工大附（神奈川）。

女子は、例年通り、初日1、2回戦。2日目3、4回戦。3日目準決勝、決勝という日程で行われました。シード校が強さを発揮して、4本シードがベスト4へ進出しました。

準決勝、名経大高蔵が春の全国選抜高校テニス大会優勝の園田学園に2-0で勝利して決勝進出。もう1つの準決勝、富士見丘対湘南工大附の関東対決。シングルス1を富士見丘がシングルス2を湘南工大附がそれぞれ勝利。ダブルスは、セットカウント1-1、ファイナルセットは、タイブレーク。7-3で湘南工大附が勝利して、決勝進出。富士見丘は、女子団体戦、史上初の5連覇を地元、東京で果たすことが出来ませんでした。

決勝戦は、1、2番コートを使用して、2面進行で行われました。お互いに初の決勝戦。プレッシャーのかかる試合を元気一杯、明るくプレーした名経大高蔵。一方、緊張していたのか、動きが悪く、生彩を欠いたプレーの湘南工大附。ダブルス林・平松（名経大高蔵）対高橋・竹内（湘南工大附）の試合は、6-4、6-3で名経大高蔵。シングルス1大矢希（名経大高蔵）対鎌田琴衣（湘南工大附）の試合も6-0、6-2で名経大高蔵。ほぼ同時に試合が終り、名経大高蔵の優勝が決まりました。

有明コロシアムで行われた団体戦表彰式では、国枝慎吾選手にプレゼンターとして登場して頂き、入賞した選手全員に入賞メダルが授与されました。そして、表彰式後には、車

いすテニスのデモンストレーションが行われ、表彰式に花を添えて頂きました。



〈個人戦・シングルス〉

男子ベスト8は、次の選手。丸数字は学年。
高橋悠介②（神奈川・湘南工大附）、井上友③（大分・大分舞鶴）、柴野晃輔③（京都・東山）、齋藤聖真③（神奈川・湘南工大附）、小見山僚③（東京・東海大菅生）、小林雅哉②（千葉・東京学館浦安）、堀泰也②（岐阜・県岐阜商）、千頭昇平①（愛知・誉）。

関東4名、東海2名、近畿1名、九州1名であり、3年生が4名、2年生が3名、1年生が1名、1、2シード以外は、ノーシードから混戦を勝ち上がって来た選手の活躍が光った。

第1シード高橋悠介②（神奈川・湘南工大附）は、昨年、全日本Jr16才以下男子シングルス優勝、JOCジュニアオリンピックカップ準優勝という力を存分に発揮して、決勝進出。

準決勝、千頭昇平①（愛知・誉）対小林雅哉②（千葉・東京学館浦安）の試合は、ファーストセット6-2で千頭。セカンドセット1-1。急に動きが悪くなつた千頭のミスが多くなつて、1-6。ファイナルセット0-5。そこから気合いのこもつたプレーで3-5まで挽回しましたが、30-40で小林のマッチポイント。千頭のサービスダッシュ、小林のリターンは、千頭の足下をつき、フォアハンドのハーフボレーがネットに掛かってゲームセット。小林が決勝に進出しました。



男子シングルス決勝は、有明コロシアムで行われました。第1シード高橋悠介②（神奈川・湘南工大附）対小林雅哉②（千葉・東京学館浦安）の関東対決になりました。ファーストセット、昨日の勢いで攻める小林、第1シードのプレッシャーからか、生彩を欠いたプレーでミスの多い高橋。7-6（7-4）で、小林。高橋はそこで、トイレットブレークを取り、気を取り直してセカンドセットへ。セカンドセットに入つてからは、昨日までの高橋が蘇り、気迫のこもつたプレーで6-2。ファイナルセットに入つても勢いは止まらず、6-1で高橋の初優勝。まるで、6年後の東京オリンピックで活躍して欲しいという願いのこもつた試合でした。

女子ベスト8は、次の選手。

齋藤佳帆③（千葉・拓大紅陵）、山口真琴③（長崎・九州文化学園）、小堀桃子①（東京・大成）、福田詩織②（東京・堀越）、渡邊安美②（福井・仁愛女子）、小池颯紀②（広島・美鈴が丘）、伊藤佑寧②（東京・日出）、宮田みほ②（愛知・名経大高蔵）。

関東4名、九州1名、東海1名、北信越1名、中国1名であり、3年生が2名、2年生

が5名、1年生が1名、女子もシードダウントレーニングが相次ぐ中、関東勢、特に2年生の活躍が光った。

女子シングルス決勝は、男子シングルスに続いて、同じ有明コロシアムで行われました。



第1シード齋藤佳帆③（千葉・拓大紅陵）対ノーシードから勝ち上がってきた、伊藤佑寧②（東京・日出）の関東対決となりました。サウスローからのサーブと強烈なフォアハンドストロークで攻める伊藤、粘り強いストロークからカウンターで攻める齋藤。激しいラリー戦を6-2、6-4で伊藤が勝利し、2012年第39回全国中学生テニス選手権大会に続いて、ノーシードからの優勝を成し遂げました。

〈個人戦・ダブルス〉

男子ベスト4は、次の選手。

小林雅哉②高村佑樹②（千葉・東京学館浦安）、山佐輝③島袋将②（三重・四日市工）、齋藤聖真③畠山成汎③（神奈川・湘南工大附）、田中凜③小見山僚③（東京・東海大菅生）。



決勝は、9時30分頃から雨が降り始めたため、10時スタートをNB10時30分に変更して、第1コートで第4シード山佐輝③・島袋将②（三重・四日市工）対ノーシードから勝ち上がってきた齋藤聖真③・畠山成汎③（神奈川・湘南工大附）で行われました。強烈なストロークを繰り出す山佐・島袋。果敢にネットプレーで応酬する齋藤・畠山。山佐・島袋のストローク力が勝り、6-2、6-4で、勝利して、団体戦と併せて2冠を達成しました。

女子ベスト4は、次の選手。

清水梨沙③三輪愛永③（京都・京都外大西）、橘彩音③栗本麻菜③（兵庫・相生学院）、上唯希③中谷琴乃②（兵庫・園田学園）、大矢希③平松詩菜③（愛知・名経大高蔵）。

決勝は、男子ダブルスの隣の第2コートで第7シード大矢希③・平松詩菜③（愛知・名経大高蔵）対第8シード清水梨沙③・三輪愛永③（京都・京都外大西）で行われました。この男女ダブルスの決勝戦を開始するにあたって、補助員の高校生達の素晴らしいコート整備のおかげで、試合開始時間を30分遅らせるだけで始められたことは、とても素晴らしいと思います。その思いが伝わったのか試合は、ショットの冴え渡る清水・三輪がファーストセット6-2。セカンドセットに入り、ミスが目立ち始めた清水・三輪。コンビネーションが良くなつて来た大矢・平松が6-1。ファイナルセットも勢いが止まらな

い大矢・平松が6-2で勝利して、男子と同じく団体戦と併せて2冠を達成しました。

個人戦の表彰式も団体戦の表彰式と同じ、有明コロシアムで行われました。個人戦表彰式では、プロテニスプレイヤーの杉山愛選手にプレゼンターとして登場して頂き、入賞した選手全員に入賞メダルが授与されました。そして、表彰式後には、杉山愛選手のトークショーが行われ、表彰式に花を添えて頂きました。



〈おわりに〉

8月1日の開会式から8日の最終日まで、ハードコートでのインターハイ。雨が心配されたインターハイ。しかし、東京以外では、豪雨。東京だけが晴

天に恵まれ、連日35度を記録し、団体戦初日には、約1万人の観客動員。「テニスの聖地」有明テニスの森で、役員の先生方・補助員の高校生達、そして、応援に来て頂いた方々の思いが伝わり、選手達が熱い試合を繰り広げたインターハイ。6年後、同じ会場、「テニスの聖地」有明テニスの森で行われるオリンピックを期待させるような素晴らしいインターハイでした。大会に關係して頂いた方々へ感謝の意を表したい。そして、来年は、大阪インターハイ。会場は変わりますが、思いは同じ、日本発世界行き、そのような高校生達の戦いに成ることを願って、レポートを閉じることに致します。

